

## ベトナム人日本語学習者の物語の描写における視点表現の特徴 —日本語母語話者との比較を通じて—

### Distinctive Characteristics of Expressions of Empathy used in Storytelling by Vietnamese Learners of Japanese: a Comparison with Native Japanese

ダンタイ クインチャー

#### 要旨

本研究は、日本語母語話者と、日本語の習熟度が異なるベトナム人日本語学習者とが、物語描写においてどのような視点表現を使用するか、また、談話の展開過程で視点がどのように変化するかを調査・考察したものである。その結果、次のことがわかった。

- ① 受身表現、授受表現、移動表現、感情・主観表現、使役受身表現、語彙的表現を視点表現として考えた場合、どの学習者群も日本語母語話者より視点表現の産出が少ない。
- ② 日本語母語話者は多くの視点表現を使用し、一人の人物を中心に描写する傾向がみられるのに対し、ベトナム人初中級日本語学習者は、ベトナム語母語話者のベトナム語による描写と同様に、視点の中立性、移動性が高い傾向にある。一方、ベトナム人上級日本語学習者は母語の干渉が多少薄れ、視点の中心性、固定性の意識をもつようになる。

**キーワード：**視点表現、共感度、物語描写、ベトナム人日本語学習者、ベトナム語母語話者

#### 1. はじめに

日本語学習者は、物語を描写する場合、どこに視点を置き、説明を行うのかに揺れがあるため、視点の一貫性が失われ、話が分かりにくくなる。そのため聞き手に「だれが?」、「だれに?」、「どういうこと?」という疑問を生じさせる場合が少なくない。それが原因で、日本語学習者の話し方は、一つ一つの発話にはさほど違和感がないが、ひとまとまりの長い談話では分かりにくくなる指摘されることがある。本稿では、ベトナム人日本語学習者の物語描写の調査を行い、日本語の習熟レベルの違いによって、視点に関わる表現をどのように選択して物語を描写するのかを、日本語母語話者との比較を通して明らかにし、そこから談話でみられる視点タイプの特徴を明らかにすることを旨とする。

#### 2. 先行研究と本研究の立場

視点と言語表現の関連性について、いち早く研究したのは久野（1978）である。久野（1978）は視点と言語学を深く論じ、「視点」を「カメラ・アングル」ということばで説

明している。このカメラ・アングルは、話者の「共感度 (Empathy)」により、どの指示対象者寄りに設定されるかが決定される。

視点表現の選択を通じて視点の置き方を判定する研究は少なくない(渡邊 1996、中浜・栗原 2006、魏 2010、レ 2012 等)。それらの研究において扱われる視点表現は研究者によって様々であるが、共通している文法的手がかりは述語の受身表現と授受表現である。大塚 (1995:298) では、視点表現は「話者の心理的物理的位置付けであり、同時に外界を話者に位置付けるものである。話者と他の存在物との関係を聞き手に示し、話の世界を構成する視点表現は、事象を話者に関係づける標識である」と定義されている。

視点に関わる研究は、英語・中国語・韓国語を母語とする日本語学習者を対象とする研究ではかなり蓄積がある。一方、本研究では、近年急速に増えるベトナム語母語話者を対象にするほか、日本語能力のレベル別に、さらには留学経験の有無による視点表現の相違を対象にしている点で、先行研究とは異なるオリジナリティがある。

談話で話者の視点を判断する際、主語、述語、接続詞、引用など、様々な文法的手掛かりがあるが、本稿では「カメラ・アングル」という久野 (1978) の視点の概念を採用する。そして、視点を表す文末述語的表現によって、話者が視点をどの人物に寄せ、描写するのか、談話の展開と共に視点がどのように変化し移動するのかを検討する。

### 3. 調査の概要

#### 3.1 調査の対象

調査の材料は図1の通りである。調査<sup>1</sup>の全対象者は108名<sup>2</sup>、次のようにVA、VB、VC、VD、JJ、VVの6群に分け、各群とも18名である。



図1 調査に使用した漫画 (左上①→右下⑧)

<sup>1</sup> 図1の漫画は、2回の予備調査を踏まえてプロの絵本作家(田島かおり氏)に依頼した。漫画は文化固有の要素が強いため、漫画家ではなく絵本作家の方が適切だと考えた。

<sup>2</sup> ベトナム国内の大学に在学中の日本語を専攻する1年生、2年生、3年生、合計約300名の学習者を調べた。各群で、ほぼ同じ日本語の学習歴、学習環境、日本語に対する嗜好の特徴がある学習者を選んだ。また、日本語能力を確認するために、選ばれた各学年22名にSPOT90 (Tsukuba Test-Battery of Japanese) を実施し、各学習者群の間には、日本語能力の差があり、学習者群内の日本語能力はほぼ同じであることを確認した。

VA、VB、VC<sup>3</sup>はそれぞれベトナム人大学1年生、2年生、3年生（いずれも留学経験なし）、VDは日本国内の大学に在籍するベトナム人留学生学部3・4年生、JJは日本語母語話者大学生・大学院生、VVは日本語学習経験のないベトナム母語話者 大学生・大学院生である。

### 3.2 調査方法

対象者に前掲の8コマの漫画を見せ、口頭で物語を描写してもらい、録音した。調査の指示は「自由にストーリーを作り、話してください。」である。調査の際、日本語学習者にはベトナム語で指示を出した。フォローアップインタビューに関しては、日本語学習者各群とも2名ずつ実施し、主に授受表現と移動表現の意味的意識、使用の意識について尋ねた。

### 3.3 分析場面

使用された漫画には、姉、弟、母の3名の人物が登場する。8コマのうち、絵①と絵②は内容に重なる部分があり、「お姉さんと弟は持ち物を交換した」という一つの文でまとめる対象者が多かったので、1つの場面として扱う。

表1 本研究で扱った分析場面

場面	内容
場面1	お姉さんと弟が人形とソフトクリームを交換する。(絵①+絵②)
場面2	弟が人形の頭を取ってしまう。(絵③)
場面3	お姉さんが怒る。(絵④)
場面4	お母さんが部屋に入る。(絵⑤)
場面5	お母さんが人形を直す。(絵⑥)
場面6	お姉さんと弟が互いに謝る。(絵⑦)
場面7	お姉さんと弟が仲直りして、また一緒に人形で遊ぶ。(絵⑧)

<sup>3</sup> VAは1年近く日本語学習経験があり、『みんなの日本語II』（スリーエーネットワーク編著）48課まで学んでいるが、日本語能力試験（JLPT）を受けていない。VBは2年近く日本語学習経験があり、『テーマ別 中級から学ぶ日本語』（松田浩志 ほか 著）13課まで学んでいるが、日本語能力試験（JLPT）を受けていない。VCは3年近く日本語学習経験があり、『テーマ別 中級から学ぶ日本語』（松田浩志 ほか 著）25課まで学び、日本語能力試験（JLPT）を受けN2を取得している。

## 4. 視点表現の使用状況の特徴

### 4.1 視点表現の判定基準

本研究では魏（2010）、武村（2010）、レ（2012）を参考に、視点表現を考察の対象として設定し、表2のようにまとめた。先行研究と異なる点は、主に感情表現と主観表現の分け方の有無である。先行研究では、両者を分けているが、感情表現の中にも、主観性が含まれることもあるので、両者を截然と分ける意味があるのか疑わしい。そのため、本研究では、感情表現と主観表現を分けず、感情・主観表現として扱い、その中に（1）感情形容詞、（2）思考・視覚動詞と（3）感情を表す文法的表現を含め、考察した。また、「貸す」、「借りる」のような語彙的表現も視点表現として扱った。

表2 本調査が扱う視点表現の言語形式

視点表現	言語形式
受身表現	〈日本語〉「Vれる」／「V」られる 〈ベトナム語〉 bị (被) / đượ (得) + 与え手+V
授受表現	〈日本語〉「(Vて) あげる」／「(Vて) もらう」／「(Vて) くれる」 〈ベトナム語〉 V+cho/giúp/ giúp cho + 受け手
使役受身表現	〈日本語〉 Vさせられる 〈ベトナム語〉 bị (被) + 与え手 bắt+V
移動表現	〈日本語〉 Vていく／(Vて) くる 〈ベトナム語〉 V+方向を表す助詞
感情・主観表現	(1) 〈日本語〉と〈ベトナム語〉の感情形容詞：「sung sướng」（うれしい）、 「muốn」（～ほしい）、「thích」（好き）、「sợ」（怖い）等 (2) 思考・視覚動詞：「～思う」「考える」（nghĩ）、「～分かる」（hiểu ra）「感じる」（cảm thấy）「反省する」（nhìn lại thấy）等 (3) 文法的表現：「～てしまう」（làm gì đó mất rồi）「～ことにする」（quyết định）
語彙的表現	貸す「cho mượn」・借りる「mượn」

### 4.2 視点表現の使用状況の分析結果と考察

次頁の表3、表4の分析データをもとに、統計ソフトSPSS16.0を用いて一元配置による分散分析を行った。学習者各群（VA、VB、VC）と日本語母語話者（JJ）の間で、使役受身表現は0で統計値がない外は、それぞれ受身表現（ $p=0.03$ ）、授受表現（ $p=0.008$ ）、移動表現（ $p=0$ ）、感情・主観表現（ $p=0$ ）、語彙的表現（ $p=0.034$ ）の使用には有意差が見られた（有意水準：0.05）。

表 3 対象者別の視点表現の使用量

視点表現	VA(n=18)	VB(n=18)	VC(n=18)	VD(n=18)	JJ(n=18)	VV(n=18)
使用量	31《13》	40《9》	46《9》	57《6》	75《2》	51《3》

《 》内の数字は誤用数<sup>4</sup>

表 4 対象者別の視点表現の使用人数及び使用回数

視点表現	VA(n=18)		VB(n=18)		VC(n=18)		VD(n=18)		JJ(n=18)		VV(n=18)	
	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数
受け身表現	4	6	11	14	11	11	4	5	3	3	2	4
	22.2%		61.1%		61.1%		22.2%		16.7%		11.1%	
授受表現	9	14	7	9	6	10	14	17	12	24	11	13
	50.0%		38.9%		33.3%		77.8%		66.7%		61.1%	
移動表現	1	1	1	1	0	0	7	7	18	19	9	11
	5.6%		5.6%		0.0%		38.9%		100.0%		50.0%	
感情・主観表現	7	11	15	15	14	25	14	28	16	26	14	23
	38.9%		83.3%		77.8%		77.8%		88.9%		77.8%	
使役受身表現	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	
語彙的表現	0	0	1	1	0	0	0	0	3	3	0	0
	0.0%		5.6%		0.0%		0.0%		16.7%		0.0%	
合計	18	31	18	40	18	46	18	57	18	75	18	51

次に、どの対象者群のどの視点表現にどのような偏りがあるのかを具体的に観察するために、Games-Howell 法による多重比較を用いて分析を行った。JJ、VA、VB、VC、VD、それぞれの対象者群を基準として、残る対象者群と比較すると、次頁の表 5 の通り、視点表現の使用について有意な差が現れた。

表 5 Games-Howell 法による各群の間有意差の結果

受身表現の使用 : VB、VC > JJ
授受表現の使用 : VD > VB
移動表現の使用 : VD > VC
JJ > VA、VB、VC、VD
感情・主観表現の使用 : VC > VA
VD > VA、VB
JJ > VA、VD

<sup>4</sup> 誤用の評価については、3名の日本語教育経験のある日本語母語話者に視点表現の産出の誤用の指摘と評価をしてもらった。本稿は誤用の具体的な分析は省略し、文法的な間違いがあっても使用量に数え、視点の取り方として分析した。

受身表現に関しては、VBとVCのほうがJJより有意に多い。授受表現に関しては、ベトナム人学習者の中で差がある。日本にいる学習者VDはベトナムにいる学習者より有意に多い。つまり、習得の段階が上がるほど授受表現の使用が多くなるといえる。移動表現に関しては、日本人のほうが有意に多い。ベトナム人学習者のうちでは、習得の段階が上がるほど移動表現の使用が多くなる。感情・主観表現に関しては、日本人のほうが有意に多い。ベトナム人学習者のうちでは、習得の段階が上がるほど感情・主観表現の使用が多くなる。

以上の分析を踏まえ、調査結果での視点表現の使用状況は以下のようにまとめられる。

### (1) 受身表現の使用 VB、VC>JJ

本調査で受身表現が産出できそうな場面は、場面②（お姉さんは弟に人形を壊される）と場面③（弟はお姉さんに怒られる／叱られる）である。データから見ると、VBとVCはJJより受身表現の使用が有意に多いことがわかった。学習者群VA（4名）、VB（11名）、VC（11名）は両場面で受身表現を使用した。場面③のほうが場面②より受身の使用が多い。JJ（3名）とVD（4名）は場面③でのみ受身を使用していた。

本調査では、VVのデータをみると、受身表現の使用は学習者ほど多くない。Hoang (2015)によれば、ベトナム語は受身表現を使いやすい言語とは言えない。しかし、日本語の文法を考え、すでに学んだ受身表現を使用したいという意向が強いため、初中級学習者は絵を見て、被害やよくない結果が起こる事態に対して、受身表現を使用する傾向があると考えられる。一方、同じ事態であるが、日本語母語話者JJは特に場面②（弟は人形を壊す）に対して受身表現を使用せず、その代わりに残念な気持ちを表す「～してしまう」を多用している。そのため、場面②において、JJは「姉は人形を壊された」という受身の使用が少ない。

### (2) 授受表現の使用 VD>VB

授受表現の使用があるのは場面①（持ち物を交換する）、場面⑤（お母さんが人形を直す）と場面⑥（姉弟はお互いに謝る）である。データを見ると、VDはVBより授受表現の使用が有意に多いことがわかった。データを詳細に分析すると、授受表現の種類と授受表現を使用する場面は対象者群によって違うといえる。授受表現の使用は最も多いのがJJ（12名24回）、次はVD（14名17回）である。特に、場面⑤ではJJの18名中11名、VDの18名中14名が授受表現を使用していた（「お母さんは人形を直してくれました」、「お母さんは人形の頭を付けてあげました」等）。一方、同じ場面⑤で、VAは18名中2名（2回）、VBは18名中2名（2回）、VCは18名中5名（5回）しか授受表現を使用しておらず、JJやVDに比べ、非常に少ない。また、場面①では、JJの18名中9名が「～してあげる」、

表 6 各群の談話に見られた視点表現数

談話に見られた視点表現数		日本語母語話者 (JJ) n = 18	ベトナム人日本語学習者				ベトナム語母語話者 (VV) n = 18
			1年生VA (n = 18)	2年生VB (n = 18)	3年生VC (n = 18)	留学生 VD (n = 18)	
受身表現	叱られる	1	2	12	8	3	3
	見られる	1					
	怒られる	1				1	
	壊される		2	1	2		
	言われる				1	1	
	故障される		1	1			
	取り換えられる		1				
	抜かれる				1		
	付けられる						1
小計	3	6	14	11	5	4	
授受表現	やる・あげる	1	3	5	1	1	
	もらう	3	6	1		1	1
	～てあげる系	10	2	3	1	9	12
	～てもらう系	1	3		4	3	
	～てくれる系	9			4	3	
	小計	24	14	9	10	17	13
移動表現	来る	3	1	1		3	1
	～てくる	16				4	10
	小計	19	1	1	0	7	11
使役受身表現	貸せられる						
	小計	0	0	0	0	0	0
感情主観表現	形容詞系	3	11	5	8	9	13
	～しまう	20		10	14	19	2
	～ことにする	1					
	思う・考える	1			1		2
	反省する	1					
	分かる				1		
	気付く						2
	感じる						4
	後悔する				1		
小計	26	11	15	25	28	23	
語彙的表現	貸す	3					
	借りる			1			
	小計	3	0	1	0	0	0

「～してもらう」を使用しているのに対し、VA と VB はほとんど「あげる」、「もらう」を使用し、「～してもらう」、「～してあげる」、「～してくれる」の使用が少ない。ベトナム語では日本語の授受補助動詞に相当する表現がないことによる。そのため、授受補助動詞を使用すべき場面の場合、ベトナム語では一般的に、いずれも「交換する」（「借りる」と「貸す」、「もらう」と「あげる」）、「慰める」、「直す」、「謝る」のような本動詞を使用するか、或いは「～してあげる」を使用する傾向がある。場面⑤で授受表現を使用しなかった VA、VB、VC のそれぞれ 2 名に聞くと、「使おうと思ったんですが、忘れてしまいました。」（VB3）（筆者訳）、「気にしませんでした」（VA7）（筆者訳）と答えた。

(3) 移動表現の使用 VD > VC                      JJ > VA、VB、VC、VD

本調査で、頻りに移動表現が産出されたのが場面④（お母さんが部屋に入る）である。

データから見ると、JJはVA、VB、VC、VDより、またVDもVA、VB、VCより移動表現の使用が有意に多いことがわかった。場面④(お母さんが部屋に入る)に対してJJが全員「来る」か「～てくる」(「お母さんが部屋に入ってきました。」「お母さんが来ました。」等)という移動表現を使用していた。一方、ベトナム国内大学の学習者各群では移動表現の使用が非常に少なく、18名中1名であった。留学生群VDはベトナム国内日本語学習者VA、VB、VCより移動表現を多く使用していた(18名中7名:7回)。VVは使用種類が豊富で、「入ってくる」だけではなく、「近づいてくる」、「歩んでくる」、「走ってくる」という動詞を使用していた。VVにとって、その事態で母がどの状態で子供たちのところに来るかということが、使用例を左右したと考えられる。ベトナム語の移動表現の構成は動詞の活用がなく、「動詞+助詞」という形である。例えば、「chạy vào」(走ってくる) = 「走る」+「方向を表す助詞」、「bước vào」(歩んでくる) = 「歩む」+「方向を表す助詞」になる。そのため、学習者にとって、「部屋に入る」の発話は、「場所+二格の助詞+動詞」で母語と近く、問題ないと見なしている可能性がある。

#### (4) 感情・主観表現 VC>VA VD>VA、VB JJ>VA、VD

調査のどの場面でも感情・主観表現は産出可能である。調査対象者が比較的多く感情・主観表現を使用するのは、場面①(お姉さんが人形を貸してもらって、嬉しい)、場面②(弟は人形を壊してしまった)、場面⑤(お母さんが人形を直してくれて、とてもうれしかった)である。データを見ると、JJはVA、VDより、VDはVA、VBより、VCはVAより感情・主観表現の使用が有意に多いことがわかった。つまり、日本語のレベルが高ければ高いほど感情・主観表現の使用が多くなっていた。調査対象者の中で、JJは感情・主観表現を最も多く使用していた(18名中17名:26回)。特に、感情・主観表現の使用数が多いのは場面②と場面③である。場面②と場面③では、JJは15名(27回中20回)、VDは11名(27回中19回)、VCは10名(26回中14回)、VBは8名(11回中9回)、これらが「～てしまう」(壊してしまう、泣いてしまう、怒ってしまう)という感情を表す文法的表現を使用していた。JJとVDは感情を表す形容詞の使用が比較的少ない。一方、VAは特に「うれしい」、「悲しい」、「よかった」のような感情形容詞を頻繁に使用していた。

VVの感情表現の使用量は学習者各群と比べ、有意差はないとみられる。感情表現のデータをみると、VVとVA、VBの共通している点は、感情形容詞の使用量が多いこと、「～てしまう」の使用が少ないことである。「～てしまう」は後悔や残念な気持ちを表す文法的な表現である。ベトナム語では「～てしまう」は「～làm gì đấy mất rồi」という表現に相当するが、かなり誇張的な表現のため、使用を控える配慮が働くと考えられる。



そのため、VVはこの場面に対して、「～してしまう」を使用する代わりに、イントネーションを下げたりする話者の声と顔の表情で、無念さを伝える傾向がある。

#### (5) 使役受身表現と語彙的表現

全対象者において使役受身表現の使用は見られなかった。JJは「貸す」という視点を表す語彙的表現を3回使用していたが、使用数が少ないので、各対象者群の間に、語彙的表現の使用に有意差はみられなかった。場面①(持ち物を交換する)に対して、VVと学習者は同じ感覚で事態を把握していたため、ほとんど「換える」・「交換する」という動詞を使用していた。そのため、「貸す」・「借りる」の使用が非常に少なくなっていた。

### 5. 視点タイプの特徴

文節単位で述語の視点表現の分析を行うと、局所的な傾向は見えるが、談話の展開と共に視点がどのように変化するかを総合的に見ることはできない。そこで、5節では、談話の展開と共に起こるそうした変化を明らかにするために、場面を単位とし、場面の変化に伴って視点がどのように変化するかで、談話の視点のタイプを判定することにした。

#### 5.1 視点タイプの判定

視点タイプの判定は次の通りである。述語を対象として、視点表現を使用する場面と、視点表現を使用しない場面とに分類する。各描写場面を構成する文の数は調査対象者によって異なるため、文の数に関わらず、当該場面において視点表現の使用がない場合は【中立視点の場面】<sup>5</sup>と呼ぶ。一方、一度でもある人物の視点で描写されれば【姉視点の場面】、【弟視点の場面】、【母視点の場面】とする。さらに、一つの場面において、複数の人物による視点で描写されていれば【複数視点の場面】と呼ぶ。

表1の7つの場面において、人物に寄せる視点の場面の量と中立視点の場面の量に基づいて視点タイプ进行分类する。理論的枠組みでは、17のタイプ<sup>6</sup>に分けられると考えられる。理論的な17のタイプに本研究のデータを当てはめ、分析・考察しやすくするために、以下のように視点タイプを設定する。本研究の視点タイプは従来の研究と違って、視点の固定性だけではなく、中心性も考慮している。

<sup>5</sup> 本研究での「中立視点」という概念は、述語的表現に注目し、授受表現、受身表現のような視点表現を使用せず、外部から客観的に中立に描写するというものである。

<sup>6</sup> 理論的枠組みの17タイプ：(1) 姉固定視点 (2) 姉中心・弟移動 (3) 姉中心・母移動 (4) 姉中心・弟母移動 (5) 弟固定視点 (6) 弟中心・母移動 (7) 弟中心・姉移動 (8) 弟中心・姉母移動 (9) 母中心・姉弟移動 (10) 中立固定視点 (11) 中立中心・弟移動 (12) 中立中心・姉移動 (13) 中立中心・母移動 (14) 中立中心・姉母移動 (15) 中立中心・弟母移動 (16) 中立中心・姉弟移動 (17) 中立中心・姉弟母移動

- ・**類型 I【姉中心視点】**：<姉に視点が寄る場面量>が<中立視点がある場面量>と<他の人物の視点に寄る場面量>の総和より多い。（姉中心視点の場面は7つのうち4つ以上）
- ・**類型 II【弟中心視点】**：<弟に視点が寄る場面量>が<中立視点がある場面量>と<他の人物の視点に寄る場面量>の総和より多い。（弟中心視点の場面は7つのうち4つ以上）
- ・**類型 III【中立固定視点】**：視点表現を使用しない。全場面ではすべて中立的に描写される。
- ・**類型 IV【複数人物移動視点】**：<複数の人物に寄る場面量>が<中立視点がある場面量>より多い。
- ・**類型 V【中立中心・一人の人物移動視点】**：<中立視点がある場面量>が<姉か弟か母かに視点が寄る場面量>より多い。
- ・**類型 VI【中立中心・複数人物移動視点】**：<中立視点がある場面量>が<それぞれの複数の人物に視点に寄る場面量>の総和より多い。

視点タイプの分類は、例として次頁の実例1、実例2、実例3が挙げられる。

**実例1 類型 I【姉中心視点】 JJ13**

場面	描写の内容	視点
場面①	まず二人の兄弟が遊んでいました。で、弟がソフトクリームを舐めて、お姉ちゃんは人形で遊んでいました。	中立
場面②	その中で、弟が「その人形を貸して」って、お姉ちゃんは「いいよ」と言って、交換をしました。	中立
場面③	で、お姉ちゃんがお気に入りの人形を弟に貸したら【姉】、なんと遊んでいるうち、切ってしまいました【姉】。お姉ちゃんはそれを見て、 <u>ビックリ</u> 【姉】。	姉
場面④	お母さんがそこに <u>やってきて</u> 【姉】、怒っているところを見て、「何をやってるの」という風に言って、弟が泣いているところを見られてしまいました【姉】。お母さんはお姉ちゃんに「なんでこういうことをしたの」と言って、ちょっと怒っているけど、お姉ちゃんは <u>しょんぼり</u> しています【姉】。	姉
場面⑤	そこで、お母さんは「この首を直してあげるね」という風に言って、のり <u>でつけてもらいました</u> 【姉】。	姉
場面⑥	二人とも大喜びです。そうしたら、弟は「ごめんなさい」という風にとちゃん <u>と謝ってくれました</u> 【姉】。	姉
場面⑦	お姉ちゃんも「いいよ」という風に言って、二人は仲良く遊びました。	中立

実例2 類型III【中立固定視点】 VA8（視点表現無し）

場面	描写の内容	視点
場面①	弟さんとお姉さんに一緒に遊びます。弟さんはアイスクリームを食べ なら、お姉さんは人形を遊びます。それから、弟さんとお姉さんは換 えます。	中立
場面②	でも、遊びなら、弟さんは人形を故障します。	中立
場面③～④	お母さんが帰った時、弟さんとお姉さんは喧嘩します。	中立
場面⑤	それから、お母さんは人形を作ります。	中立
場面⑥	それから、弟さんとお姉さんに「すみません」と言います。	中立
場面⑦	それから、弟さんとお姉さんは一緒に遊びます。	中立

実例3 類型VI【中立中心・複数人物移動視点】 VB 10

場面	描写の内容	視点
場面①	弟さんは今アイスクリームを食べています。お姉さんは人形を遊んで います。それから、二人は人形とアイスクリームを換えます。	中立
場面②	お姉さんはアイスクリームを食べていますが、お姉さんは人形を弟に <u>故障されました【姉】</u> 。	姉
場面③	それから、弟さんはお姉さんに叱られます【弟】。	弟
場面④	その時、母はそのことを見ます。	中立
場面⑤	お母さんは弟さんに人形を修理してあげます【母】。	母
場面⑥	お姉さんと弟さんは一緒に「ごめん」と言っています。	中立
場面⑦	それから、二人は人形を一緒に遊んでいます。	中立

5.2 固定・移動と中心・中立との視点タイプの分析結果と考察

固定・移動と中心・中立との視点タイプを設定し、それで談話の視点タイプを分析した。各群の調査対象者が、どのような視点タイプで描写したかを表7にまとめた。

VA、VB、VCはJJと違い、類型Iと類型IIという一人の人物中心に視点を寄せ、描写するデータはなかった。視点タイプが最も多いのは類型VI【中立中心・複数人物移動視点】である（VA：50%、VB：61.1%、VC：44.4%）。初中級学習者の視点タイプの傾向はベトナム母語話者VVとほぼ同じである。視点表現を使用せず中立に客観的に描写するか、或いは、視点表現をたまに使用するが、複数の人物に寄せ、視点を移動する傾向になる。VDは一人の人物を中心にし、視点を選ぶ傾向がある（類型I【姉中心視点】：5.6%、類型II【弟中心視点】：11.2%）。また、類型VI【中立中心・複数人物移動視点】の使用率はVA、VB、VCの半分ぐらい（22.2%）である。くわえて、類型V【中立中心・一人人物移動視点】と類型VI【中立中心・複数人物移動視点】の総率が50%を占めている。さらに、類型IV【複数人物移動視点】のデータが全対象者群のうち、最も多かった

(27.8%)。こうして、ベトナム人の日本語上級学習者は、視点の中立性、移動性がまだ高いが、弟固定視点や複数人物移動視点で描写することで、母語の干渉から多少薄れ、視点の中心性、固定性の意識をもつようになるといえる。

表7 対象者別による視点タイプ<sup>7</sup>

視点タイプ	JJ	VA	VB	VC	VD	VV
類型I【姉中心視点】	8	0	0	0	1	0
	<b>44.4%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.00%
類型II【弟中心視点】	2	0	0	0	2	0
	<b>11.1%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	<b>11.1%</b>	0.00%
類型III【中立固定視点】	0	4	1	2	1	2
	0.0%	<b>22.2%</b>	5.6%	11.1%	5.6%	11.10%
類型IV【複数人物移動視点】	2	1	2	2	5	4
	11.1%	5.6%	11.1%	11.1%	<b>27.8%</b>	22.20%
類型V【中立中心・一人の人物移動視点】	6	4	4	6	5	1
	<b>33.3%</b>	22.2%	22.2%	<b>33.3%</b>	27.8%	5.60%
類型VI【中立中心・複数人物移動視点】	0	9	11	8	4	11
	0.0%	50.0%	<b>61.1%</b>	44.4%	22.2%	<b>61.1%</b>

## 6. おわりに

以上述べてきたことを最後にまとめる。

視点表現の産出に関しては、日本語母語話者はベトナム人日本語学習者より視点表現の産出が多い。一方、学習者群の間では、日本語習得の段階、習熟度が上がるほど視点表現の産出が増えてくる。受身表現については、ベトナム人初級中級学習者は文法項目に注意を払うため、日本語母語話者より産出が多い。授受表現の使用については、日本語母語話者とベトナム人日本語学習者とは差があまりないが、詳細な授受表現の使用については異なっている。例えば、ベトナム人日本語学習者は母語の干渉で「あげる」「もらう」の使用が「～してあげる」「～してもらう」の使用より多い。「～してくれる」については日本語上級学習者においても使用率が低いといえる。移動表現に関しては、母語と異なる形があるため、ベトナム人日本語学習者は移動表現の使用が少ない。しかし、上級になると、移動表現の使用が多少多くなる傾向がある。感情・主観表現に関しては、総合的に日本語母語話者のほうが有意に多いが、感情形容詞の使用についてはベトナム人学習者よりも少ない。ベトナム人日本語学習者のうちでは、習得の段階が上がるほど感情・主観表現の使用が多く、豊富になる。

<sup>7</sup> 太字の数値は各類型のうちで、それぞれの視点タイプの%がもっとも高いことを表す。

視点表現の使用の有無と移動のタイプについては、本調査の結果から、日本語母語話者は多くの視点表現を使用し、一人の人物を中心にして描写する傾向がみられる。ベトナム人の日本語初級中級学習者はベトナム語母語話者とほぼ同じく中立視点で描写するか、或いは多く視点表現を使用して、キャッチボールのように移動する視点で描写する傾向がある。ベトナム人の日本語上級学習者は、弟固定視点や複数人物移動視点で描写することで、母語の干渉から多少解放され、視点の中心性、固定性の意識をもつようになるといえる。

今後は、述語的視点表現だけでは視点を判断するのに十分ではないため、主語を中心にして調査して、視点を判断し検討を進めていく。さらに、視点を指定した場合、視点表現の産出と視点の選び方に変化があるかどうかを調査し、検討したい。

## 参考文献

- 大塚純子(1995)「中上級日本語学習者の視点表現の発達について：立場志向文を中心に」『言語文化日本語教育』、pp.281-292
- 魏志珍(2010)「台湾人日本語学習者の事態描写における視点の表し方—日本語の熟達度との関連性—」『日本語教育』144号、pp.133-144
- 久野暉(1978)『談話の文法』大修館書店、pp.129-180
- 武村美和(2010)「日本語母語話者と中国語日本語学習者の談話にみられる視座—パーソナル・ナラティブと漫画描写の比較—」『広島大学院教育学研究科紀要』第59号、pp.289-298
- 中浜優子・栗原由華(2006)「日本語の物語構築：視点を判断する構文の手がかりの再考」『言語文化論集』第XXVII巻第2号、pp.97-107
- Hoang Cong Binh(2015)“Strategies of translating English passive sentences into Vietnamese”, *Language and Culture* 2 (232)-2015、pp.48-53 (ベトナム語の論文)
- レカムニュン(2012)「ベトナム人日本語学習者の文章にみられる視点の表し方—日本語母語話者との比較—」昭和女子大学大学院 2012年度修士論文
- 渡邊亜子(1996)『中上級日本語学習者の談話展開』くろしお出版